



国際ロータリー第2800地区 1959年6月9日創立

鶴岡ロータリークラブ

例会場 東京第一ホテル鶴岡(鶴岡市錦町2-10) 例会日 毎週火曜日(12:30~13:30)

平成25年10月22日(火)第2650回 例会 (本年度第14回)

11月5日(火)	ゲストスピーチ 米山奨学生 馬可君
11月9・10日(火)	地区大会
11月12日(火)	振替休会
11月19日(火)	通常例会 会長スピーチ オランダ② クラブ協議会

Eメール◎tsuruoka08@rid2800.jp ホームページ◎http://www.tsuruokarc.org/

会長挨拶

嶺岸禮三君

先々週の12日、19名の会員、ご家族の参加を得て東京東江戸川ロータリークラブの創立45周年記念例会並びに講演会・祝賀会に参加してまいりました。参加いただいた皆様、ありがとうございます。そして大変お疲れ様でした。

出席報告を申し上げますと、45周年という50周年を5年後に控えた周年行事としては大変豪華な内容でした。また、翌日帰路に着くまで至れり尽くせりのお世話を頂き大変恐縮いたしました。最後までお付き合いくださった東京東江戸川ロータリークラブの皆様、心からの御礼を申し上げます。我がクラブ創立55周年には心を込めたお返しが出来ればと思っています。

式典参加者は150名ほどで、友好クラブとしては私たち以外に韓国大田ロータリークラブから6名の会員が参加していました。式典では来賓や特別代表のあいさつ、須賀会長や平田実行委員長の挨拶がありました。

ところで東京東江戸川ロータリークラブと鶴岡ロータリークラブとは、今年友好クラブ盟約20周年になります。平成5年7月9日、当時の石橋会長以下11名の皆様が鶴岡駅に到着され、当クラブから松田士郎会長、富田盟約特別委員長、大川幹事などが出迎えました。太平洋戦争末期、学童疎開を余儀なくされた江戸川区の小学生が鶴岡市に疎開したことが縁で、鶴岡市と江戸川区は友好都市の関係にあり、東京東江戸川ロータリークラブの会員の中にも鶴岡で疎開体験をされた方がおられることから、東京東江戸川ロータリークラブ創立25周年の記念事業の一環として盟約がなされました。その記念のイベントをお互いの周年行事式典ではなく来年の5月11日(日)に実施する予定になっています。

記念講演は「日本よ、のびやかなれ」というテーマで櫻井よしこさんが講演を行いました。櫻井さんは1945年10月ベトナム、ハノイ生まれ。日本テレビのニュース

キャスター、薬害エイズ問題で知られ、現在は民間のシンクタンク国家基本問題研究所の理事長を務めています。尖閣諸島や竹島の問題では論客として新聞テレビにも度々登場し、舌鋒鋭い意見を述べています。

講演は90分間でしたが、最後まで飽きさせない語りは流石でした。阿部純次直前会長は文芸春秋を読んで講演に臨んだそうですが、私は帰りに文芸春秋を買って読みました。そこにはアメリカ、中国、韓国の専門家と櫻井さんの対談が載っています。櫻井さんの主張は日本と中国の今の異常な関係をどう解決するかということでした。憲法を改正し、集団的自衛権を確立し有事に備えよという、櫻井さんの発言の背景には今アメリカが内向きになっていることへの苛立ちがあるようでした。ロータリーは「国際理解と世界の平和」を標榜する民間団体です。国家間には難しい問題があっても、民間レベルでは友好な関係を維持していくことが大変重要です。中国と日本が再び戦うようなことにならないよう民間の努力が必要だと感じた次第です。

翌日は、江戸川区民祭りに菅原君などが、スカイツリー見学に樋渡ご夫妻などが、そして何人かは個人的な用事で単独行動をされました。快晴で絶好の観光日和だったので、どこに行っても楽しめたのではないのでしょうか。昼食は浅草の老舗ですき焼き料理と浅草芸者さんの芸を堪能し、石橋さんの芸術文化論を聞きながら優雅な一時を過ごしました。先ほども申しましたが、来年の5月、6月には都会では味わえないおもてなしで東京東江戸川ロータリークラブの皆様をお迎えしようと思いますのでご協力をお願いいたします。



野球を通して人間力を培う

山形県立山形中央高等学校 野球部監督 庄司秀幸氏



野球はうまいだけで勝つことはできません。一人の人間としてどうあるべきかという人生観を追求しなくては、勝負の世界に生きる価値はないと思います。

本校は人づくりが勝つことにつながる野球を目指しています。人生の歩みの中で、人間は様々な困難と出会うことになります。その時、どのような心構えで向き合えるのか。受け入れる覚悟とその逆境と戦う強さを身につけることが本校の大切な目的であります。その強さの真実が人間力であり「感謝心」です。

高校生同士の戦いの中で勝敗を分ける紙一重の差だと感じています。その紙一重の差には「本気」という気が根にあって、そこに様々なストーリーが作られ「誰かのために」という使命感や感謝心があってこそその勝利ではないかと思っています。本校は全国で活躍できる学校力があります。生徒をはじめとする関係者の方々の努力があってこそその恵まれた空気です。そこに目に見えないたくさんの方々の想いなど様々な相対的な要素が重なって勝利につながることを確信しています。日本一になるためには日本一のストーリーが必要で、何気ない日常の中で作られ、全員が主人公になれるものです。後輩たちにはそんなストーリーを描ける恵まれた環境に感謝し、スポーツマンシップという誇りを胸に生活してほしいと切に願っています。2013年の春、最高のスポーツマンシップは自分の人格を上げることだと再認識いたしました。

■センバツ「東北絆枠」の意味

今春、甲子園選抜高校野球大会に、今大会限りの「東北絆枠」で山形中央が出場した。東日本大震災からの復興に高校野球は何ができるのかという主催者側の想いで「東北絆枠」が設けられた。当初、岩手、宮城、福島県の3県に限定して出場枠を設ける案があったが、地元から被災地を線引きしないでほしいという意見が相次ぎ、東北地区全体に1枠を設けることになった。明確な選考基準がなかったため、選ばれた選手たちに困惑があった。背負う物が大きすぎ、比較的被害の少なかった山形県の自分たちが東北をつなぐ絆になれるのか選手たちの思いは複雑だった。庄司監督は毎日ミーティングをし、震災ボランティアにも参加したが、被災者の思いを分かろうとしても、すべてを理解できるものではない、自分たちが勝ち進むことで東北に光が当たり、震災の風化を食い止める役割を果たせると「東北絆枠」の意味を理解した。

自分たちなりに「東北絆枠」の意味を見出した選手たちは、初戦の2回戦で岩国商に6対2で快勝し、甲子園初勝利を挙げた。続く3回戦で優勝した浦和学園に1

対11で大敗したが、全力プレーが強い印象を残した。大会後、庄司監督は、被災地の思いを背負ってなどと軽々しく言えない中、甲子園で戦うまでは本当に苦しかった。眠れない時もあった。しかし今大会限りの東北絆枠だが、我々には一生語り継げる宝物になったとコメントした。この言葉に救われた気がした。
(毎日新聞「記者の目」和田 崇 2013年4月30日)



委員会報告

◆新世代委員会

理事 武田啓之君

ローターアクトクラブの山王ナイトバザールお陰様で無事終了いたしました。ご協力ありがとうございました。

◆出席委員会

◎ゲスト

庄司 秀幸氏(山形県立山形中央高等学校 野球部監督)

◎メイクされた方

迎田 健・菅原隆之・塚原初男

スマイル ☺

丸山隆志君 庄司先生感動的な話をありがとうございました。息子が鶴工時代、先生の山形中央と試合をしたことがあります。その時は甲子園に出場しました。また甲子園目指し頑張ってください。

塚原初男君 自分も野球少年でした。55歳まで草野球を楽しみましたが、「勝とう勝とう」とプレーするのではなく「負けない負けない」とプレーすることの大切さを学びました。本日は庄司監督から、その先の「良い負け試合」という世界のあることを学ばせていただきました。

阿蘇司朗君 庄司先生、本日はお忙しい中ありがとうございました。夜も中学校のPTAでお話しくださることになっております。

加藤 亨君 庄司先生、いい話をありがとうございました。五中からもお世話になっていると思います。是非甲子園に行ってください。

阿部純次君 先生は息子と同年だと思っています。息子も野球部で応援など楽しませてもらいました。10月10日に鈴依奈(れいな)という4190グラムのビックな内孫が誕生しました。

嶺岸禮三君 庄司先生、本日は遠路、お忙しい中お越し頂きありがとうございました。

出席報告

会員数	40名
出席	27名
出席率	72.97%
前々回確定出席率	83.78%

RI会長 ロンド・バートン

地区ガバナー 新関彌一郎

会長／嶺岸禮三 副会長／越智茂昭 幹事／小林健郎 会長エレクト／丸山隆志
会報委員会／嶺岸禮三・本間 厚・石田 雄・丸山隆志

事務局:鶴岡市馬場町11-63 鶴岡産業会館3階 TEL(0235)28-3375 FAX(0235)28-3376